

令和3年度 東浅草小学校授業改善推進プラン

○ 第4学年【国語科】

1 児童の状況及び実態

・単元テストより		
	平均点	
知識・技能	86.5	
思考・判断・表現	話すこと・聞くこと	77.5
	書くこと	65.0
	読むこと	78.8

【知識・技能】
単元テストの結果から、概ねできている。しかし、漢字の読み書きが定着していなかったり、使える語彙が少なかったりするなど、児童によって差がある。既習の漢字を日頃から使うことも定着していない。

【思考・判断・表現】
「話すこと・聞くこと」においては、筋道を立てて話したり、内容のポイントを押さえて聞いたりすることが苦手な児童がいる。「書くこと」においては、平均点が65点と最も低い。苦手意識をもっている児童も多く、根拠を明確にして書いたり、文章を要約したりすることに課題がある。各内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意して、文章の構成を考えることが不十分である。

【主体的に学習に取り組む態度】
言葉集めや文作りなど、集中して取り組む様子が見られる。一方で、読書や自分の考えを話す活動に消極的な児童もいる。



2 指導についての課題

【知識及び技能】 <ul style="list-style-type: none">・既習の漢字を使えるように定着を図る指導。・語彙を増やし、意味を正しく理解できるようにする指導。
【思考力、判断力、表現力等】 <ul style="list-style-type: none">・筋道を立てて話したり、内容のポイントを押さえて聞いたりする指導。・文章の構成を考え、自分の思いや考えを書くことができる指導。・全体の構成を捉えながら読み、要点をまとめることができる指導。
【学びに向かう力、人間性等】 <ul style="list-style-type: none">・自分の思いや考えを伝えたいと思える指導。・読むことが楽しいと思える指導。



3 授業改善に向けての具体的な方策

【知識・技能】 <ul style="list-style-type: none">・定期的に漢字テストを行い、既習の漢字をできるようにする。・新しい語彙の意味を調べたり、文作りをしたりして理解を深める。
【思考・判断・表現】 <ul style="list-style-type: none">・順序を表す言葉を使って話せるようにする。・文章の構成メモを活用したり、モデル文を提示したりすることで、児童が組み立てを考えながら書けるようになる。・構成を考えながら読み、指定された文字数で要約できるようにする。
【主体的に学習に取り組む態度】 <ul style="list-style-type: none">・ペアやグループ活動を取り入れて、自分の考えを伝えたり友達の考えを聞いたりできるようにする。・並行読書や読み聞かせを行い、読むことに親しむことができるようにする。

○ 第4学年【社会科】

1 児童の状況及び実態

・単元テストより

	東京都の様子	水はどこから	地震からくらしを守る	平均点
知識・技能	81.0	86.0	89.0	83.5
思考・判断・表現	85.0	87.5	97.0	87.0

【知識・技能】

- ・東京都の地理的環境や47都道府県の名称と位置を概ね理解している。
- ・地図帳やパンフレット等の学習資料から必要な情報を読み取ることが概ねできている。

【思考・判断・表現等】

- ・東京都の地形や主な産業の分布、交通網や水の供給の仕組みなどの情報を白地図や学習新聞にまとめることが概ねできている。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・昨年度、社会科見学の体験活動を行っていないため、学習したことの実感が伴わないことがある。



2 指導についての課題

【知識及び技能】

- ・学習したことが実際の社会生活の中で活用できる知識や技能となるような指導。

【思考力、判断力、表現力等】

- ・箇条書きや絵を使って情報を整理するための指導。
- ・記号を用いて情報を分類するための指導。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・学習したことを確認したり振り返ったりすることを通して、学習成果を基にして生活の在り方やこれからの地域社会の発展について考えを深められるようにする。



3 授業改善に向けての具体的な方策

【知識・技能】

- ・新聞を活用し実際の社会生活の課題と学習内容を関連付けられるようにする。
- ・エピソードを交えて知識を伝達することで、記憶しやすいようにする。

【思考・判断・表現】

- ・位置や空間的な広がりや、時期や時間の経過などに着目して、比べたり、分類したり、東京都の人々の生活と関連付けさせていく。
- ・白地図や学習新聞にまとめた情報を、友達と共有させることで、社会的な事実を正確にとらえさせる。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・地方新聞から情報を得たり、教室での学習計画に沿って社会科見学を実施したりすることで、興味・関心を高める。
- ・主体的に学習に取り組むために、副読本の「学び方・調べ方」コーナーを活用し、調べるための手順や方法を助言する。

○ 第4学年【算数科】

1 児童の状況及び実態

・単元テストより

評価の観点	大きい数	折れ線グラフと表	わり算の筆算	角の大きさ	小数のしくみ	平均点
知識・技能	77.9	81.1	80.0	75.6	87.6	82.5
思考・判断・表現	68.7	73.4	80.7	59.0	86.7	82.5

・東京ベーシック・ドリル診断テスト（第3学年の内容） ※数値は%

大問	整数の表し方	整数のたし算	整数のひき算	整数のかけ算	整数のわり算	小数の表し方	小数のたし算	小数のひき算	分数の表し方	平均正答率
正答率	80.0	93.3	84.4	40.0	84.4	68.8	86.6	82.2	73.3	
大問	分数のたし算	分数のひき算	式による表現	単位と測定	時刻と時間	円と球	正三角形・二等辺三角形	表や棒グラフ		
正答率	88.8	82.8	33.3	73.3	11.1	24.4	37.7	26.6		63.6

【知識・技能】 単元テストの平均点が82.5%であることから、どの単元も概ね知識・技能は定着している。大きい数や角の大きさ等は、数や分度器の正確な操作が十分にできていないと考えられる。東京ベーシック・ドリル診断テストを問題内容別に見ると17項目中6項目が正答率50%を下回っている。

【思考・判断・表現】 角の大きさの正答率は59.0%であり、「角度」の見方や考え方の定着が不十分である。図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し、立体図形の平面上での表現や構成の仕方を考察し図形の性質を見いだす力が不十分である。

【主体的に学習に取り組む態度】 各単元の学習内容は定着しているが、日常生活に活用する、新しい学習で既習の内容を生かそうとする態度が身に付いていない児童も見られる。取り組みに丁寧さや粘り強さに欠けることがある。

2 指導についての課題

【知識及び技能】

- ・知識として理解すべき数学的用語の量や手順を整理して提示するなどの指導。
- ・学習した内容を定期的に想起させ、確実な定着を図る指導。

【思考力、判断力、表現力等】

- ・図形の多様な見方や考え方を児童から引き出す指導。
- ・思考の過程を可視化し、スモールステップ化した指導。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・日常生活の中にある事象を扱ったり、学習内容の関連性を振り返ったりする活動を取り入れた指導。

3 授業改善に向けての具体的な方策

【知識・技能】

- ・図形の構成要素や作図の過程を視覚的に理解できるようにするために、デジタル教科書や書画カメラを活用する。
- ・数学的用語を用いて説明させることで、その意味を正確に理解させる。

【思考・判断・表現】

- ・図形の部分を色分け等で識別させることで、着目する部分を明確にして、説明し、友達の考えを聞いて理解できるようにする。
- ・「まず」「次に」「そして」という接頭語を使って説明させることで、思考を順序立てて説明できるようにさせる。

【主体的に学習に取り組む態度】

・今後の学習に生かせるようにするため、単元の終わりに学んだ数学的な見方や考え方を振り返りをさせる。

○ 第4学年【理科】

1 児童の状況及び実態

・単元テストより

	天気と気温	春の始まり ／春	電池のはた らき	とじこめた 空気や水	夏	平均点
知識・技能	90.0	93	86.5	82.5	89	85.5
思考・判断・表現	78	74	64	71	82	71.0

【知識・技能】

「天気と気温」や「春の始まり／春」「夏」の単元については、平均点が90点近くあることから、生命や地球に関する学習の知識・技能は定着している。反対に、「電池のはたらき」や「とじこめた空気や水」などのエネルギーや粒子に関する学習については、定着はやや低くなっている。目に見える現象は理解できているが、目に見えない現象は理解が低い。

【思考・判断・表現】

知識・技能に比べると、平均点が10点以上低い。学習内容について理解はしているが、自分の言葉で説明したり、図や絵を使って表現したりすることに苦手意識をもっている児童が多い。既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発送することに課題がある。

【主体的に学習に取り組む態度】

理科の学習は、観察や実験も多く、意欲をもって取り組む児童が多い。しかし、「実験が楽しかった」で終わってしまい、学習内容と結びついていない場面もある。

2 指導についての課題

【知識及び技能】

- ・実験方法（実験器具の名前や実験の手順など）や観察方法の指導。
- ・既習事項を基に考えることができる指導。

【思考力、判断力、表現力等】

- ・自らの経験をもとにして予想をたてたり、日常生活と関連付けて考えたりすることができる指導。
- ・自分の考えを言葉や図、絵を使って表現できるようにする指導。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・自らの経験の中から不思議や疑問を見付け、知りたいと思えるような指導。

3 授業改善に向けての具体的な方策

【知識・技能】

- ・実験の目的を意識し、一つ一つのねらいを明確にする。
- ・既習事項を基に実験結果を予測することで、知識を深める学習をする。

【思考・判断・表現】

- ・身近なものを例示して、日常生活と関連付けていけるようにする。
- ・文章だけでなく、図や絵を使って自分の考えや学んだことを表現できるようにしていく。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・日常の経験を取り入れながら授業を行うことで、日常生活に学びを生かせるようにする。